Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2007.11
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

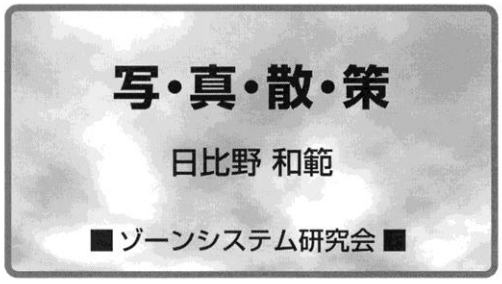
NO.38

【CONTENTS】

- 研究会記事写真工業掲載
- モノレイクの月
- フィルム現像用タイマー
- 暗室ワークスナップ
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

研究会記事写真工業掲載

ゾーンシステム研究会が、写真工業 2007 年 5 月号に紹介されました。



ゾーンシステム研究会集合写真（2007.1.13）

写真が好きな人で、アンセル・アダムスの名前を知らない人はいないだろう。ナチュラリストの系譜をひく写真家として人気の高いアンセル・アダムスのシャープできれいなヨセミテ公園の写真はとくに人気が高く、その表現力には神の技が潜んでいる魔力すら感じられる。その背景にある技が、アンセル・アダムスの提唱するゾーンシステムで、モノクロを志す人であればアンセル・アダムスが“ゾーンシステムの生みの親”として尊敬されていることも周知の事実である。

ゾーンシステムは、印画紙に表せる黒から白までを1絞り差で10段階のゾーンに分け、このゾーンの概念で自然界の光の明暗を区分けする発想で、スポットメーターを使って被写体の明暗を測定し、10段階のゾーンと関係付けながら、つぶれない暗部、そこから適正露出のキーを見つけ出すという方法で、ゾーンシステム研究会は、この手法を実践・研究する写真家・中島秀雄氏が1995年に設立した研究会である。

■ゾーンシステム研究会の設立経緯と活動

ゾーンシステム研究会は、1988年に川崎市民ミュージアムで始まった、写真家・中島秀雄氏のワークショップ、グレードアップ・フォトグラフィに参加の人たちにより研究会として活動をスタートしている。その後、1995年に会の名称をゾーンシステム研究会とし設立された。会員は、プロ写真家からカメラメーカー社員、各業界の技術者や教員など多岐に渡り、現在は約50名の会員がいる（本会の代表は、中島秀雄氏、事務局は、畑文夫氏）。なお、代表の中島秀雄氏は、東京写真短期大学（現・東京工芸大学）卒業後、細江英江氏の助手となり70年万国博覧会写真制作に参加。個展や写真集の出版、「ゾーンシステム・ハンドブック」中島秀雄・田中益男共著（朝日ソノラマ刊）でも知られる写真家である。

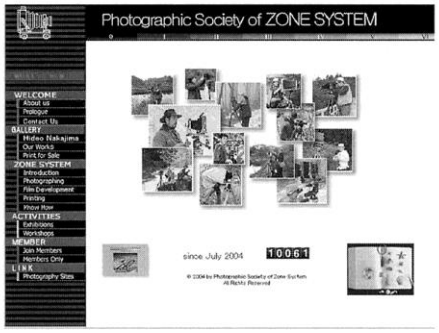
研究会の活動は、大型カメラによる白黒ファインプリントを愛好し、ブローニ、4×5インチ判以上の中・大判フォーマットカメラにて撮影し自家現像を行うメンバーの集まりで、研究会の主たる活動として①ゾーンシステムあるいは新技術の調査研究活動を基本に、②月例会（講評会）、年間数回の撮影会と、1泊程度の風景撮影会、屋内での静物撮影会、ワークショップ（暗室実習など）などの開催、③会報の発行（年に数冊）、④作品の制作と写真展開催（毎年11～12月ごろ）が主たる活動項目で、写真家・中島秀雄氏の細かい指導には定評がある。

■絶賛される写真展と昨年の活動事例から

“中島秀雄ゾーンシステムワークショップ”は、ファインプリント制作の肝が学べるワークショップとして人気が高く、毎年4～5月に集中開講されている（2007年は、限定15名で4/1～5/20の5回カリキュラムコースで開講中）。また、米国ヨセミテ公園での撮影指導やアンセル・アダムス氏ゆかりの地を巡る“アンセル・アダムスの世界を極める、セミナー・ワークショップの旅”も他に類を見ない実践型撮影旅行として毎年好評で、参加者の方々がアンセル・アダム

ゾーンシステム研究会例会で作品講評をする
中島秀雄代表（2007.1.13）

ゾーンシステム
研究会会報



ゾーンシステム研究会ホームページ（扉頁）

ゾーンシステム研究会会報・第11回写真展DM

ス氏ゆかり地で素晴らしい作品を撮ってくると評価が高い（2007年は6月開催、今年の募集は終了）。

国内での風景撮影教室も年数回開催されているが、ゾーンシステムの概念は風景撮影だけなくさまざまな撮影シーンに応用できることから、人物・静物撮影教室なども開催されている。金属・野菜・魚などをモチーフに広告写真さながらのライティング技術と造形美の写し方を学ぶ静物撮影教室などは、後に自宅でさまざまなモチーフを使い撮影することで、フィールドとは一味違う作品作りが楽しめることから、撮影旅行に行けない多忙なときに自宅での静物撮影に嵌る会員もいて好評のようだ。

毎年恒例のゾーンシステム研究会の写真展「光への探究」は、昨年12月18日～27日に東京銀座の京セラ・コンタックスサロンで開催され、多数の来場者がモノクロファインプリントの素晴らしさを絶賛していた。

また、京都展開催以来2回目の開催となった地方展は、イオン水戸内原ショッピングセンターの協力で開催され、モノクロファインプリントの魅惑的な世界が地元来場者達に感動を与え「このようなモノクロファインプリントを見たことがなかった」「このような写真をやってみたい、もっと見たい」という声が多く聞かれ、ゾーンシステム研究会の活動意義のアピールに加え、モノクロファインプリントの素晴らしさと可能性を幅広い方々に伝えることに成功している。

■研究熱心な情熱が伝わってくる充実の例会

ゾーンシステム研究会の例会は、原則として毎月第2土曜日（午後2～5時）に横浜市民活動支援センター会議室にて開催されている。今回は1/13（土）に開催された例会におじゃまさせていただいた。当日の参加者は、中島秀雄氏を含め30名。

例会は、昨年末に東京銀座の京セラ・コンタックスサロンで開催されたゾーンシステム研究会・第11回写真展「光への探究」の総括に始まり、今後の例会開催方法、冬の撮影会などについての意見交換の後、定例の作品講評、後に会員による研究発表があった。

今回の作品講評は、写真展開催後の例会ということもあり、写真展出品作品の講評会となった。出品者各人が撮影意図を説明した後に、会員達からの忌憚のないさまざまな意見交換の後、中島秀雄氏が総括するスタイルで例会は進行した。ここでも作品をさらに素晴らしい作品に仕上げるためには、どうすべきかという、ゾーンシステム研究会ならではの研究熱心さが伺えた。もちろんゾーンシステム研究会の例会だけに、フレーミングやライティングへの意見のほかに、“ゾーン5で”、“ゾーン6で”といったゾーンシステム用語が飛び交う講評会でもあった。このゾーンシステムの概念を理解すると、撮影時に印画紙に再現されるイメージが予測でき、現像条件、印画紙の選択の考え方が把握しやすくなるという利点があるだけでなく、このような作品講評の場でも、曖昧な指摘ではなくわかりやすい意見交換ができるのもゾーンシステム研究会ならではの例会スタイルであろう。なお、この例会は、ゾーンシステム研究会へ入会を希望する方であれば見学可能とのことである（ただし、事務局へ事前連絡のこと）。

「ゾーンシステム・ハンドブック」中島秀雄・田中益男共著、（2800円＋税、朝日ソノラマ刊）

■ゾーンシステム研究会への入会

ゾーンシステム研究会へは、会の趣旨に賛同し、原則としてゾーンシステム講座を受講した方・講座の受講を前提とした方であれば入会が認められる（講座受講期間は準会員で受講後に正会員となる）。入会金3,000円、年会費15,000円（ゾーンシステム講座受講料および、各種参加費は、そのつど徴収）。

なお、同会のHPでは、ゾーンシステム研究会の活動内容の紹介と入会案内、会員の作品、ゾーンシステム手法などに関する詳しい情報が公開されている。ぜひ同会の充実したHPを訪れていただきたい。

http://hw001.gate01.com/zonesystem/

モノレイクの月

中島秀雄

ヨセミテに来て今日で3日目になる。この日も朝は寒く、いまにも雨が降りそうな天気だった。数人がテントの前で未明の出来事について身振り手振りで話していた。テントの脇には鉄板で出来た熊除けのロッカーが置かれ、食べ物や臭いの付いたものはすべてロッカーに入れることになっている。このロッカーが未明熊に狙われた。ドアの一部がバールで曲げたように壊され、引っかき傷を見れば明らかに昨日のロッカーと違っていた。

前日、我々はグレーシャー・ポイントに出かけ腹ごしらえにジャーキーを買い、残りはロッカーに入れていた。それが狙われた原因だという話になっていた。熊はまだ子供で、強いライトを当てると、よたよた森に帰っていったという。未明の出来事に私はまったく気がつかなかった。

今回、シーズンを少し過ぎた9月にヨセミテ撮影ツアーを敢行した。この季節、水が少ないことは事前の情報で聞いていたが、道路に沿って流れるマーセド・リバーは信じられないくらい水はなかった。大小無数に点在するむき出しの石や岩は、洪水によって山頂から押し流されたようにも見えた。いつもなら豊かな水を湛えて流れるマーセド・リバーの果ては太平洋に注ぐものと漠然と思っていたが、つながっていない理由もこれで分かった。

モノ・イン　　中島秀雄

ボーディ　　中島秀雄

我々は、多くのテーマを持ってヨセミテにやってきた。しかし、今回のハイライトは何といってもモノレイクの満月を眺め、撮影することだった。アダムスの写真の中には月を題材にしたすばらしい作品が数多くある。月をこれほど風景写真に取り込んだ作品を他の写真家にあまり見たことはなく、月を風景写真の要素として完成させた写真家といえるのかもしれない。(ハーフ・ドームの山頂に輝く月、シエラ・ネバダ山脈の上に登る月、そして ”ニューメキシコ州、ヘルナンデスの月の出” が特に有名。この作品は現存するだけで800点あるといわれているが、1981 年、ある業者に$71500 (35x55in.サイズ)という最も高い値段で引き取られ、世界的に有名になった。)

私達は(注1)ボーディの撮影を午後1時に切り上げ、月を眺めるためモノレイクに向うことにした。まだ陽は高く、月を見るには早すぎることは分かっていたが、途中何があるか分からないので早めに湖に向かうことにした。ボーディ周囲の道はすべて砂利道になっていて、幹線道路に出るまでかなりの距離は砂利道を走らなければならない。マイケルに地図で教えてもらった近道は傾斜があ

り、ブレーキを踏むと崖側に車体が横滑りしていく厄介な道だった。周囲は潅木の丘が続き、遥か前方にはシエラの山並み、手前下方にモノレイクがうっすら見え、まだかなりの距離があった。

モノレイクの際にある(注 2)レストラン・モノインにはすでに多くの客で賑わっていた。この日の満月に合わせ、以前から予約していた客のようだった。私達はテラスに出て時間までアダムス夫妻を囲んで語り合った。かつてモノレイクの水はロサンジェルスへ送られていて、その仕事に従事する人達の建物をアダムスが買い取り、内装を変えて現在のギャラリー兼レストランにしたようだ。陽が暮れかかると多くの人たちが再び集まり、楽団まで登場しその準備に入っていた。私達はレストランを背にし、その正面に三脚とカメラをセットした。レストランから眺める客には邪魔になる位置にあったがかまわないといってくれた。周囲はまだ明るく湖もよく見え、手前には白い建物、正面に三本の木が少し邪魔に見えた。湖の対岸までは地図を見ると 20ｋｍ ほどあり、その先に低い山が連なっている。そこから月が昇ってくることを知らされ、目はそこに集中していた。撮影準備を終えた我々はテーブルにつき食事をオーダーした。月の出は6時30分前後と聞いていたが、食事が始まり私は気がきではなかった。レストランの大きなガラス窓の外には三脚とカメラがセットされ、その向かいに湖が見えた。このまま撮影などあきらめ、多くの客と同じようにテーブルから満月を眺めたい気分にもなった。二口食べたところで月の一片を見つけ、出た、といった。どよめきが起きた。我々は何とせっかちなのか、ナイフとフォークを脇に席を立ち、カメラに向かった。月は見る見るその大きさを我々に現し、存在を見せ付けるかのように輝き始めた。すでに露出はセットされ、フォルダーも装填済み、引き蓋を抜きシャッターを切った。湖に月光の帯が長く伸び、辺りは暗くなり始めた。5枚ほど撮影したが、撮影位置を変更する余裕などまったくなかった。月の上昇は大変早く、周囲は暗闇に包まれ、月の明かりだけがまぶしく目に入ってきた。混みあった屋根や電線の際から見る日本の月とは明らかに違っていた。荒涼とした大地から昇る月は、惑星間の自然な天体の動きを一瞬見る思いだった。いつか楽団の演奏と歌が始まり、われわれも席に戻った。

モノレイク　　中島秀雄

ﾏｲｹﾙ･ｱﾀﾞﾑｽ，吉田隆志，ｼﾞｰﾝ･ｱﾀﾞﾑｽ各氏
中島秀雄

(注 1) 1850年頃、金鉱が発見され、およそ一万人の街になった。やがて金は掘り尽くし、ゴーストタウンと化した街。現在はカリフォルニア州が管理。

(注 2) マイケル・アダムスの長女サラ・アダムスの経営するレストラン兼ギャラリー。

フィルム現像用タイマー

古谷津純一

全暗黒が必要なシートフィルムのトレイ現像に便利なタイマーとその使い方の紹介です。

タイマーの準備

・トーキング（音声読み上げ）タイマー（写真左：主に目の不自由な人のために開発されたもの）
・普通のキッチンタイマー（写真中央）
・メトロノーム（写真右）
（注）タイマーやメトロノームは濡れた手で触るため、あらかじめビニール袋に入れておくかラップ等で包んでおくと、浸水による故障を防ぐことが出来ます。

現像の実際

１．水浴・現像液・停止液・定着液をそれぞれ準備し、「所定の現像時間＋10 秒」をタイマー２台にセットします。また、メトロノームはテンポを 60（１秒毎に鳴る）にセットし、明るいうちからスタートしておきます。

２．暗室でフィルムをホルダーから取り出したら、現像中に順番が確認できるように１枚目のフィルムだけフィルムノッチの位置を逆向きにして順番に前浴を開始します。

３．前浴が完了したら、タイマー２台を同時にスタートし、メトロノームで 10 秒数えた時点で１枚目のフィルム（フィルムノッチの位置が他フィルムと逆向き）を現像液に移動し、現像を開始します。
・普通のキッチンタイマーは、トーキングタイマーに不具合が生じた場合の保険ですので、トーキングタイマーのみでも実施可能です。
・例として、６枚現像する場合は１枚目のフィルムを現像液に浸し、メトロノームで 10 秒間隔になるようにカウントしながら、順番に次のフィルムを現像液に投入し、さらに、メトロノームで秒数を数えながら 10 秒間隔でトランプ攪拌して現像を進めます（6 枚を 10 秒間隔で攪拌すると１分間で一回り）。
・トーキングタイマーは、残り 10 分から１分毎、残り１分から 10 秒毎、10 秒以内は１秒毎に音声で知らせてくれますので、現像中に時間進行に対する不安がありません。

４．所定の現像終了時間がきたら、10 秒ごとに、フィルムを入れた順番（フィルムノッチで確認）に停止液に移動します（定着も同様）。

トーキングタイマー入手先

http://www.daikatsuji.co.jp/goods/12005.html

メトロノーム

http://www.seiko-syd.co.jp/music/jpn/product/metronome/dm70-50.html

メトロノームは現像に使用するだけでなく、撮影に際し、特に長時間露出が必要場合にも、時計を見ないで被写体を見たままシャッターのタイミングを計れますので、1 台持っていると重宝すると思います。

暗室ワークスナップ（１）(2007. 9. 2 東京工芸大学にて)

参加者：中島、宮岡、越後、加藤、岸、小野
北野、石井、松本、古谷津、畑、柳瀬（見学）

撮影：畑文夫

暗室ワークスナップ（２）

ゾーンシステム研究会定例会日誌

2007年7月21日（土）

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島、菅野、小野、荒井、宇野、山本、北野、橘田、石井、岡崎、松本、古谷津、長谷川、小菅、宮内、木下、畑

・見学者：柳瀬

・作品持参者：小野、荒井、北野、橘田、石井、岡崎、松本、古谷津、長谷川、小菅、畑

・作品送付者：浜野

●写真展広報用プリント

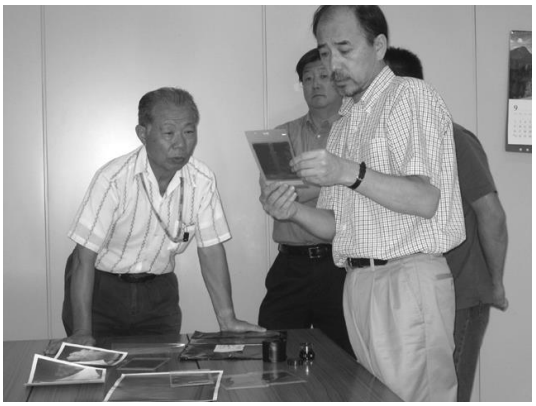
　現在の候補作品の中から、中島代表が数点セレクトする。該当した方は５×７サイズ　ＲＣペーパー（光沢）に１５枚ずつプリントし、８月１５日必着で中島代表まで郵送する。

●７月の人物撮影会は中止（モデルの都合による）

・９月のヨセミテツアー引き続き募集中。

・来年のアダムス展では、マンザナー日本人収容所の写真が多数出品される予定。

●中島代表の京都造形大ワークショップにてスポットメーターが足りない。貸してくれる方募集。貸せる方は、中島代表に送ること。（８/５まで、お礼は中島代表のオリジナルプリント）



2007年8月18日（土）

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島、山本、宇野、宮岡、小野、松本、橘田、　岡崎、浜野、石井、酒巻、北野

・作品持参者：宮岡、岡崎、浜野、橘田、松本、北野

●写真展は、現在のところ１１名の作品候補が出ていて、作品総数２９点。少なくとも例年並みに、２０名の参加、作品数４０点程度にしあげたい。従って、未だエントリーしていない人たちに積極的に呼びかけて欲しい。

●暗室ワークショップは９月２日開催。研究会として最も大切なワーク　ショップであり、極力参加して欲しい。

●暗室ワーク準備品 ： ネガ、コンタクトプリント、印画紙、バーニング紙、ビニール袋(濡れたプリント持ち帰る)、プリントレシピ、VCフィルター、ピントルーペ

●中島代表から、来年度作品展をコンタックスに申し込んでいる旨、説明あり。

●人物撮影会は開催日調整中。

●作品展用作品制作に関連し、セレニュームトナーの使い方を、畑さんから周知してほしいとのこ

と。２次水洗を完璧に行ってからトーニング するか、ハイポクリアリングエージェントとトナーを混ぜて使用する場合の注意事項を周知させてほしいとの要望あり。

●Barry Thorntonの"Edge of Darkness"の本の中から、三脚の重要性の話、引き伸し用レンズの重要性の話、grain magnifierの重要性の話等、参考事項の紹介があった。

●4x5カメラを使いトラブっている人は、一度6x6判に戻ってみることも選択肢の一つとのこと。ピント、ゴミの問題は4x5より扱いやすく、被写体の選択も増える。

2007年9月8日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島、鈴木武、酒巻、岡崎、長谷川、北野、松本、古谷津、荒井、菅野、山本、宇野、橘田、浜野、畑

・作品持参者：鈴木武、酒巻、岡崎、長谷川、北野、松本、古谷津、荒井

１．暗室ワークの反省など

●暗室には平行が狂っている引き伸ばし機がかなりあった。

ガラス製ネガキャリヤを用意すべきだった。(フィルムの反りの影響あり)

２．写真展の準備

●出品作の決定は１０月例会が最終となる。本日まで未定の人は、当日までに中島代表あて郵送のこと。本日欠席の人には手分けして連絡する。

●額装作業は１１月３日（土)、４日（日)（予備）東急東横線　反町駅近くの田中さんアトリエを借用。

2007年10月13日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島、菅野、畑、松本、小野、鈴木（武）、圓子、加藤、越後、岡崎、宮岡、浜野、酒巻、石井、長谷川、古谷津

・作品持参者：畑、松本、小野、鈴木（武）、加藤、越後、岡崎、宮岡、浜野、酒巻、石井、長谷川、古谷津

１．写真展について

●作品点数の確認，追加作品の確認

●マットボード研究会在庫確認

●額装は 11月3日（土）田中英司氏反町工房にて（10:00より）

●zone system 紹介パネル

●平木先生パネル

●会報の準備
●プライスリストの準備
●看板用作品とショーウインドウ用作品の選定と準備
●opening party は 11月17日（土）に予定．アナウンスの必要な人にはDMに案内シールを貼る。
●個々の作品情報を事務局畑氏宛に 10月末日までにメールのこと。
1. 作者プロフィール
2. 作品タイトル
3. 作品コメント　（ 1と3で200文字程度）
4. イメージサイズ
5. 作品データ
カメラ、レンズ、フィルム、シャッター速度、絞り、zone割付（keyとなるzone を2箇所程度）、印画紙名

２．Yosemite 撮影旅行報告

●参加者は８名（女性3名を含む），レンタカー2台に分乗。
●天候があまり良くなく，雨・曇り・雪など
その代わりしっとりとした Yosemite を撮影できた。
●公園の撮影
●ギャラリーレクチャー
●Michael Adams 邸　Diner party
●Bodie は天候が良かった。

●Mono Lake で満月を見る。
（Sara Adams のMono inn ）

Information

【トピックス】

・コダック NEW T-MAX400 発売

　コダックが、新しい T-MAX400 を発売するそうです。詳しくは、以下コダックＨＰで調べてみてください。

http://www.kodak.com/global/en/professional/products/blackWhiteIndex.jhtml

【売ります】

中島秀雄

・レオナルド 4x5 ピンホール・カメラ

15000 円

Information

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

［以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。］

１．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。

２．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。

・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの、（スキャナーでパソコンへ入力します。）

・パソコンの電子メール

・ウィンドウズの Word2000-2003

・text ファイル

（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。）

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

３．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。